



虫たちのがくれんぼ

～どこにがくれてているか見つけてみよう！～



虫の中には、自然に隠け込んで目立たないもの、それとは反対に黄色と黒、赤と黒、といったようにわざと目立つようになったものがいる。こわいハンターが、おいしい獲物はないかといつも狙っているから。小さな虫たちも何とか生き延びて、子孫を残さうと必死。あるものは枯葉に、あるものは枝に、あるものは木の幹に、木のこぶに化けて生き残りをかけたかくれんぼをしている。

葉に化ける



小型のヤガの仲間



ウスイロコノマチョウ



キマエコノハ

かくれんぼのチャシビオフ

ンはコノハチョウだ。やんばるの森に暮らす枯れ葉に似たこのチョウは、木の幹に止まるときは必ず頭を下向きにする。頭を食べられないように工夫しているんですね。

鳥の巢に化ける



コウマダラエダシャク アゲハチョウの仲間の幼虫



アズチグモの仲間



花に化ける



かくれんぼのチャシビオフ

ンはコノハチョウだ。やんばるの森に暮らす枯れ葉に似たこのチョウは、木の幹に止まるときは必ず頭を下向きにする。頭を食べられないように工夫しているんですね。

オオミノガのミノ

(幼虫の巣)



シャクガの仲間の幼虫



スズメガの仲間の幼虫



木の枝や、こぶに化ける



シャクガの仲間の幼虫

※シャクガの仲間の幼虫を俗に「シャクトリムシ」と呼びます。



オキナワナナフシ



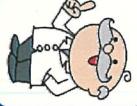
カレハガの仲間の幼虫

vol. 17 虫たちの身の守り方

虫たちの身の守り方は大きく分けて2種類あるんだ。1つは、このページにのっている虫たちのように植物に化けたり、ふんに化けたりして目立たないことで身を守る方法。

もう1つは、赤や黒、オレンジ、黄色などの目立つ色のしま模様や水玉模様で相手に「危険だよ」と警告して目立つことで身を守る方法がある。目立つ方法を使う昆虫は体に毒を持つたり、ハチなどのように攻撃できる針を持ってたり、あるいはいやな匂いを出したり、食べてもまずかたりするんだ。他に毒もないのに毒を持っている姿に似せて敵から身を守っているチョウもあるよ。

なほエコ博士の
なるほど講座



鳥たちの好きな場所

鳥にも好きな場所があって、深い森が好きな鳥、水辺が好きな鳥、草原が好きな鳥、街が好きな鳥、干渴が好きな鳥…といふようにさまざまな環境を利用している。新都心の森は、水辺あり、草原あり、森もあり、いろいろな環境が一緒になって、成り立っている。もちろん渡り鳥たちもやってくる。冬に、暖かい沖縄の森で過ごし、春には旅立つて鳥たち(冬鳥)。夏には子育てのために南から渡ってくる鳥たち(夏鳥)。春と秋に渡りの途中で羽を休める鳥たち(旅鳥)。どこにも渡らずに一年中ここで暮らす鳥たち(留鳥)。そんな鳥たちとここで出会える。



バードハウジングコレクション

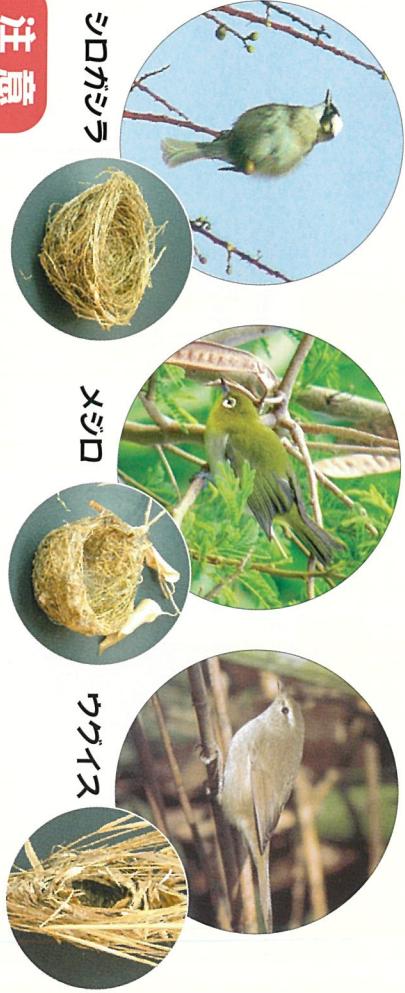
春になると森の小鳥たちも急に忙しくなる。ハゼノキのてっぺんではシロガシラが翼を広げて、かっこいいところを見せてているよ。メジロだって負けでない。木の高いところで、上手に歌を歌っている。それもこれも、みんな子孫を残すためにがんばっているんだ。そんな鳥たちも巣の形はいろいろ。それぞれの遺伝子に巣の設計図がちゃんと記録されている。子供を安全で快適な環境で育てる努力は人間と一緒にだね。



七

四

ב' כ



シロガシラ

メジロ

ウグイス



注
解

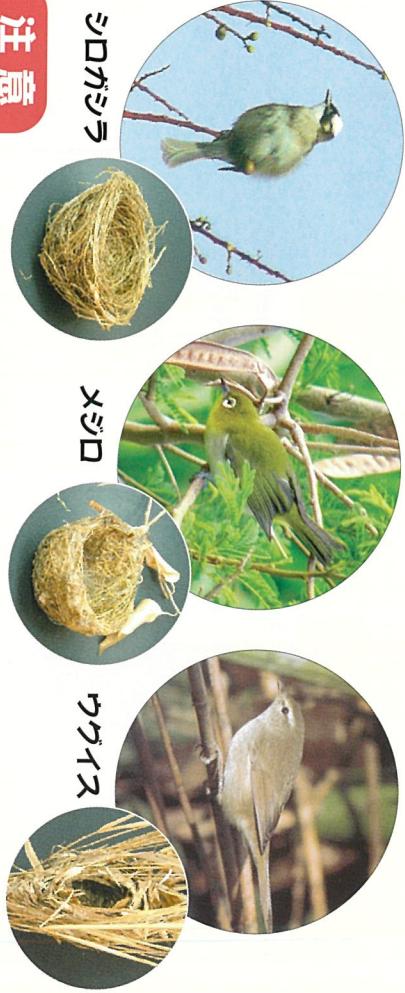
春から夏の間（3月～8月）は野鳥の子育てのひかえましょう。（キジバトは季節と関係なく子育ての親鳥は卵やヒナを守るために神経質になります。ヒナに食事を与えることができなくなります。）

巣の近くで落ちているヒナをみかけたら、そつとう。人間が近くにいると親鳥がヒナに近づけないです。そうすると親鳥がヒナのもとに戻ってきます。

春から夏の間（3月～8月）は野鳥の子育ての季節です。この期間の巣の観察はいかえましょう。（キジバトは季節と関係なく子育てするので気をつけましょう。）親鳥は卵やヒナを守るためにも神経質になり、人が近くにいると巣に入れなくななり、ヒナに食事を与えることができなくなります。また、人がそいたりするとびっくりしたヒナが巣から落ちてしまうことがあります。巣の近くで落ちているヒナをみかけたら、そっと木の上などにのせてあげましょう。人間が近くにいると親鳥がヒナに近づけないので、すぐにその場からはなれます。そうすると親鳥がヒナのもとに戻ってきます。

vol. 20 「ひっさしびり！」と鳴く鳥は何？

なほエツ博士の
なるほど講座



シロガシラ

メジロ

ウグイス



七

四

ב' כ



注
解

春から夏の間（3月～8月）は野鳥の子育てのひかえましょう。（キジバトは季節と関係なく子育ての親鳥は卵やヒナを守るために神経質になります。ヒナに食事を与えることができなくなります。）

巣の近くで落ちているヒナをみかけたら、そつとう。人間が近くにいると親鳥がヒナに近づけないです。そうすると親鳥がヒナのもとに戻ってきます。

春から夏の間（3月～8月）は野鳥の子育ての季節です。この期間の巣の観察はいかえましょう。（キジバトは季節と関係なく子育てするので気をつけましょう。）親鳥は卵やヒナを守るためにも神経質になり、人が近くにいると巣に入れなくななり、ヒナに食事を与えることができなくなります。また、人がそいたりするとびっくりしたヒナが巣から落ちてしまうことがあります。巣の近くで落ちているヒナをみかけたら、そっと木の上などにのせてあげましょう。人間が近くにいると親鳥がヒナに近づけないので、すぐにその場からはなれます。そうすると親鳥がヒナのもとに戻ってきます。